DREAM TAXI

陣内

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ＤＲＥＡＭ　ＴＡＸＩ

【Ｎコード】

Ｎ７８９５Ｂ

【作者名】

陣内

【あらすじ】

大事なプレゼンテーションの発表の朝に寝坊してしまった男の試練とは……

ゆっくりと瞼を開けて目を覚ます。
首を横に向けると、カーテンの隙間から陽射しが洩れていた。その光は真っ直ぐ僕の顔に伸びている。
身体を捻り光から顔を背ける。すると、テーブルに置かれた時計が視界にはいった。僕は目を疑う。
午前八時！
ベッドから飛び上がり、急いでクローゼットへ駆け込んだ。
いつもは規則正しく七時に起きて、余裕の笑みを見せながら仕事場につくのに。そんな言葉が頭の中をぐるぐると回っている。
顔は洗わない。歯も磨かない。当然食事もとらない。
背広に着替え、バックを持ち、部屋を出る。
なぜこんなに急ぐかと言うと、今日は大事なプレゼンテーションがあるからだ。昨日の深夜まで、プレゼンテーションにミスがないかパソコンで確認していた。おかげで、時計を確認するのを忘れていた。自嘲的な気分になる。
エレベーターで下り、エントランスを駆け抜け外に出る。そして道路に向かって手を挙げた。
車を持たない僕はいつも自転車なのだが、時間がないのでタクシーに縋るしか、ほかない。
すると、タイミング良くタクシーが止まり、中に飛び乗る。「〇〇〇〇会社までお願いします」僕は運転手に行き先を告げる。運が良ければぎりぎり間に合う時間だった。
「お客さん、運がいいね」
僕はのけぞってしまう。相手の口から［運］と言う単語が発せられたからだ。もしかして、君はエスパーか？　と予想してみる。
「このタクシーは別名、『マッハG〇G〇G〇タクシー』って呼ばれてんだから」運転手が親指を立てて、真っ白い綺麗な歯を見せた。

僕は驚いてしまう。アニメの視すぎだよ。
「いいですから、早く目的地へ向かってくださいよ」
「ハンドルに四つのボタンがありますよね」運転手がそう言うので、ハンドルを見やる。
「ボタンの数だけ凄いサプライズがあるんですよ」
お前が運転手なのがすでにサプライズだよ。てか、頭はファンタジーか？「じゃあ、そのボタンを使って早く目的地に行ってくださいよ」
「分かりました。一つ目のボタンは、心地よい音楽を流して時間を忘れさせるＳＯＵＮＤＳＴＹＬＥ」
死ね、ふざけるな。
「お気に召さなかったようですね。では、二つ目のボタン。フロントガラスで映画が観れるＭＯＶＩＥＳＴＹＬＥ」
お前が運転できないだろ。でか、さっきと同じレベルじゃないか。
「残念ですね。三つ目のボタンは、バネの力でひとっ飛びＳＰＲＩＮＧＳＴＹＬＥ」
マッハＧ◯Ｇ◯Ｇ◯だってそんなに飛ばないよ。
「仕方ない…最後はパトカーに早変わり。サイレンを鳴らして地上を征すＰＯＬＩＳＴＹＬＥ！」
もう、ダメだ…。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7895b/

DREAM TAXI

2010年12月31日22時34分発行